

RPPC メールマガジン 第 863 号

リサイクルポート推進協議会（令和 3 年 3 月 10 日）

■先週・今週の事務局からのお知らせ

(1) 『令和 2 年度 第 3 回 広報部会』

日 時：3 月 10 日（水）15:00～16:30

開催方法：オンライン併用（Webex）

会 場：みなと総合研究財団 3 階 会議室

(2) 『令和 2 年度 循環資源技術説明会』（東北地方整備局対象）

日 時：3 月 26 日（金）13:30～15:15

開催方法：オンライン（Microsoft Teams）

会 場：スタンダード会議室 虎の門ヒルズ駅前店 4 階 C 会議室

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 境港管理組合、境港改訂で地方港湾審議会審開催。外港昭和南地区ふ頭再編

境港管理組合は 3 月 1 日、第 30 回境港地方港湾審議会を開催し、境港の港湾計画改訂（案）について審議、原案通り了承された。外港昭和南地区の再編を行い、新規バースとして水深 12m コンテナ岸壁、ふ頭用地を確保するとともに、既設の水深 10m 岸壁の耐震化等を位置付けた。今回の改訂計画は概ね 10～15 年先を見据えたものとなっており、今年 7 月開催予定の交通政策審議会港湾分科会に諮って計画決定していく。

改訂計画（案）のうち外港昭和南地区のふ頭再編では、現在同ふ頭では原木、金属くず、チップ、ペレット、コンテナ等を取扱っている。また 2020 年にはバイオマス発電所の稼働に対応した P K S 船の入航も予定されている。このため、岸壁不足の解消やふ頭の効率的運用を図るため、新たに水深 12m 延長 230 m のコンテナ岸壁を整備し、既設バースを効率的に運用していく。ふ頭の運用例としては従来コンテナふ頭としていた水深 14m 岸壁延長 280 m をチップ船受け入れ岸壁とするほか、水深 13m 延長 270 m 岸壁をペレット船、P K S 船、金属くず船などを取扱うふ頭とする。

2.港湾局、ブルーカーボン検討委開催。吸収源対策、オフセット制度試行

国土交通省港湾局は2月26日、「地球温暖化防止に貢献するブルーカーボンの役割に関する検討会（座長・佐々木淳東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）」の令和2年度第3回会合を開催した。同検討会では新たなCO₂吸収源対策として注目されるブルーカーボン（沿岸域の藻場や浅場等に生息するアマモ等海洋植物にCO₂として取り込まれた炭素）の活用に向け具体的な検討を進めている。当日の会議ではブルーカーボンによるCO₂吸収量をクレジットとして認定し、取引を行うオフセット制度（Jブルークレジット制度）の構築に向け、横浜港で試行を開始したこと等を確認した。近く同認定を行うこととしており、来年度以降は、他地域での試行等を拡大していく方針。

3.国交省新規事業化候補を公表、港湾整備事業は7件

国土交通省は2月28日、令和3年度予算に向けて、新規事業採択時評価の手続き等に着手し、地方負担の負担者である都道府県等への意見聴取を開始したと発表した。港湾整備事業では、石狩湾新港、清水港、四日市港、舞鶴港、姫路港、川内港、西之表港の7件の新規事業化候補箇所が挙げられている。

令和3年度の港湾関連新規事業化候補は次の通り。

▽石狩湾新港東地区国際物流ターミナル整備事業（港湾管理者・石狩湾新港管理組合）、
▽清水港新興津地区国際物流ターミナル整備事業（静岡県）、▽四日市港霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業（四日市港管理組合）、▽舞鶴港和田地区国際物流ターミナル（マイナス12m）整備事業（京都府）、▽姫路港広畑地区国際物流ターミナル整備事業（兵庫県）、
▽川内港唐浜地区国際物流ターミナル整備事業（鹿児島県）、▽西之表港洲之崎地区複合一貫輸送ターミナル整備事業（鹿児島県）。

4.北九州港洋上風力積出し基地港湾、岸壁本体工開始へ

九州地方整備局北九州港湾・空港整備事務所が事業中の北九州港響灘東地区洋上風力基地港整備では先ごろ、岸壁本体の築造工事入札があり、今後現地工事が始まる。1次工事（岸壁延長100m）は風車等の大型構造物をSEPに積出す岸壁になり、2次工事（80m）は資材を搬入する岸壁として利用する。工期は2件とも令和4年3月半ばまでで、北九州港湾・空港整備事務所では引き続き後工事として、3年度に岸壁背後の裏埋工事や地耐力を確保するための地盤改良工事、またSEP積出し岸壁では海底地盤強化のため雑石による地盤置換工事等を実施予定で、令和5年度中の岸壁供用へと進めていく。

岸壁の背後用地では港湾管理者の北九州市が土地造成に合わせた地盤改良工事を進めている。

北九州港響灘地区で洋上風車の建設計画を進めている「ひびきウインドエネルギー」では、令和4年度末から洋上風車建設ポイントを対象とする基礎工事や海底ケーブル工事等の着手を予定しており、風車本体の建設は響灘地区の積出し港湾基地整備と整合性をとって事業展開していくことになっている。また北九州市では関連部材の保管用地として約5haの整備を行っており、3年度に整備を終える。

※新たに導入したPCとメーラーの環境では、添付ファイルが「***.dat」となったり、不要な添付ファイルが付く場合があります。受信ファイルに不具合がある場合は、気兼ねなくその旨ご指摘ください

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////